

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
外国語ワーキンググループ(第8回)

「知識及び技能」を 育成するための指導について

文教大学国際学部国際理解学科
文教大学大学院国際学研究科
教授 阿野幸一

教室を訪問して

- ▶ 言葉としての英語の学習に**言語活動**が大切という理解は定着してきているのは事実
- ▶ 一方でこれまでより多く話したり書いたりする生徒の(当然ながら量に比例して増えてきている)**文法や語彙使用の間違い**に不安を抱く先生方がたくさんいる

その結果として

- ▶ 言語活動を行うと同時に、別メニューとして文法の問題集やワークブックの使用（高校の「論理・表現」での現状がこれにあたります）、文脈を切り離した単語指導（単語帳を用いた小テスト）をしている現状
- ▶ その結果、言語活動における正確さに反映できずに依然として大きな課題

例えば

▶ I – my – me – mine

you – your – you – yours

she – her – her – hers

を暗記して、表を埋めるテストで満点

▶ それでも

*I love she. と言っている生徒

こんな言葉をよく聞きます

- ▶ うちの生徒は「単語を覚えていない」
「文法の基礎力がない」
では何をしますか？
- ▶ 解説と問題演習、単語帳の暗記と小テストへと向かう現状
- ▶ 場面や状況を踏まえた練習や言語活動が足りないのではないかという考えに至らない場合もある

言語活動における「知識・技能」

- ▶ 考えや気持ちを伝え合う言語活動と正確さを高める練習をつなぐ指導が必要
- ▶ それぞれの生徒が考えや気持ちを伝えあう言語活動（生徒によって異なる発話）
- ▶ 教科書本文（含む文法・単語）を活用した正確さを向上させる練習

生徒の「文法が難しい」

⇒ 文法の活用ではなく、**文法用語や解説の理解が難しい**と考えている

ー これも**言語活動と切り離した文法指導**の弊害。form, meaning, **use**

⇒ 場面、状況のある練習、言語活動につながる練習へ

例) 教科書の登場人物になったつもりでの表現活動など(生徒が同内容の発話)

例えば

- ▶ 教科書本文の(場面を踏まえた)内容理解をするための音読
- ▶ 一場面に応じた英語表現のインテイク
- ▶ 文脈がある単語や文法使用に焦点化した音読
- ▶ 一文法や単語の適切な使い方の習得
- ▶ 正確な英語を再構成するリプロダクションやリテリング、ロールプレイ

日本の教室の現状を踏まえ

豊富な

インプット → インテイク → アウトプット

聞く・読む

話す・書く

練習(音読など)

英語を蓄積

発信力へ

中学校の実践事例から

- ▶ 神奈川県川崎市立有馬中学校
(2024年度ELEC英語教育賞文部科学大臣賞受賞)
- ▶ これまでの指導を大幅に見直し、**練習の時間**を圧倒的に多くとるように改善

川崎市立有馬中学校の実践から

- ▶ どの学年・クラスともに驚くほどに英語を使う「**公立中学校**」です
- ▶ 英語を話すことをやめません
- ▶ 間違いを恐れずどんどん書きます

話し合いの結果、変更した指導(例)

- ▶ ノート使用(知識をノートに書き留めること)をやめ、音読やリテリングによって**技能として使いながら**知識を頭に蓄積する
- ▶ ワークブックの購入をやめ、**教科書本文を使いこなす**
- ▶ 板書をして説明する文法の導入はしない。単なる練習問題もゲームもやらない
- ▶ ライティングの間違いを訂正はしないで、**できるようになっている点を見つけて評価する**

単語の小テストをやめて、単語の定着のための音読

- ▶ There are many unique and precious places in the world. Some of them are selected as World Heritage sites.
- ▶ There are many (独特で) and (貴重な) places in the world. Some of them are (選ばれて) as World Heritage sites.
- ▶ There are many (u) and (p) places in the world. Some of them are (s) as World Heritage sites.

リテリング＋αのテスト

(教科書内容を基に自分の考えや気持ちを伝えるテスト)

▶ 評価項目は

「思考・判断・表現」

「主体的に学習に取り組む態度」

の2項目

- ▶ 生徒の発話量を増やすために、
あえて「知識・技能」は問わない

「知識・技能」を入れてみたら、、、

▶ 生徒が変わってしまい、、、

▶ 原稿を作って覚える

▶ 間違えないように気にしすぎて、
即興でトライしない

▶ 少ない発話量で終わり

→ 間違えながら学ぶ機会がなくなる

「知識・技能」を外したら

- ▶ 即興で自分の気持ちを話したり
聞き手に質問をしたりしてやり取り
- ▶ たくさん話すために教科書の音読練習を繰り返し、
- ▶ 結果として
英語としての「正確さ」が向上

公開授業の協議会で質問が出ました

- ▶ ではどのように「正確さ」の指導をしているのですか？
- ▶ 「教科書の英文は**正確な英語のインプット**です！」
- ▶ 「本文の様々な**音読で正確な英語を**学んでいます！」
- ▶ 特に文法と単語一穴あき音読（マスキリーディング）の活用

こうした指導の結果(3年1学期)

- ▶ 全国規模の学力考査で全国平均を上回る
- ▶ 知識・技能 +12.3
- ▶ 思考・判断・表現 +15.0
- ▶ 聞くこと +12.2
- ▶ 読むこと +12.6
- ▶ 書くこと +15.6

言語活動を支える基礎力を築くために

- ▶ 知識だけを与えていても(説明・問題演習)、活用できる**正確さ**は伸びない。
- ▶ 「学習したとき」と、「使えるようになるとき(定着)」の間には、**かなりの時差**がある！
- ▶ 「間違えること」は悪いことではない。
- ▶ 漆塗りのように**繰り返し**、**できる確率**を上げていく。

新出言語材料も大切だが

- ▶ 教科書は**既習事項**を繰り返し提示。
- ▶ 「新出事項」の学習という発想から、**既習事項**の繰り返し学習の中に（一部）新出事項が含まれるという考え方に。

知識・技能を高めるために

▶ 言語活動で間違える

練習で修正する

言語活動で間違いが減少

▶ 練習と言語活動を繰り返して、活用
できる知識・技能が向上していく指導
を